







よ かいぜん
世の改善は、

きよ りっぱ おこな
清らかで立派な行いと、

しょうさん あたい
称賛に値する

れいぎ
礼儀にかなった

こうどう とお たっせい
行動を通して達成できる。

ば は ひとびと
おお、バハの人々よ!

げんどう いっち
言動の一致しない

ひとびと みち
人々の道を

あゆ
歩むことのないよう

ちゅうい
注意せよ。



じつざい こ
おお実在の子よ!

けっさん ひ く
決算の日の来るまでは、

ひごと なんじみずか はんせい
日毎に汝 自らを反省せよ。





きょうだい
おお、兄弟たちよ！

ことば
言葉にあらずして、

おこな
行いをもちて

なんじ かざ
汝の飾りとせよ。

きよ ことば
聖き言葉と

きよ おこな
清らかなる行いは、

せい えいこう てんごく のぼ
聖なる栄光の天国に昇る。



せいじつ

誠実であることは、

びとく きそ

すべての美徳の基礎である。



せいじつ

誠実でなければ、

かみ

せかい

神のすべての世界における

しんぽ

せいこう

進歩と成功は、

だれ

ふかのう

誰にとっても不可能である。



ひとびと
おお人々よ。

せいじつ くち
誠実をもってあなたの口を

うつく
美しくせよ。

しょうじき
正直をもって

たましい かざ
あなたの魂を飾る

そうしょく
装飾とせよ。





め きよ
目を清らかにし、
て ちゅうじつ
手を忠実にし、
した せいじつ
舌を誠実にし、
こころ けいはつ
心を啓発させよ。

かみ まくや す
神の幕屋に住まい、

ふめつ えいこう ざ ひとびと み
不滅の栄光の座にある人々を見よ。

くうふく ぜつめいすんぜん
空腹のために絶命寸前であっても、

かれ て の りんじん さいほう
彼らは手を伸ばし隣人の財宝を

ふほう うば けっ
不法に奪うことは決してない。

りんじん いや
その隣人がいかに卑しく、

かち せんざい
価値のない存在であったとしても。



しんせつ した
親切な舌は

ひとびと こころ ひ っ
人々の心を引き付ける

じしゃく
磁石である。

たましい かて
それは魂の糧であり、

ことば い み こころも
言葉に意味という衣を

さず
授けるものである。

えいち りかいりよく
それは英知と理解力の

ひかり いずみ
光の泉である。



しゅ あい ひとびと
おお主から愛される人々よ!

せい しゅうきょうせい
この聖なる宗教制においては、

ふ わ あらそ ぜったい ゆる
不和と争いは絶対に許されない。

こうげき もの
攻撃するすべての者は

かみ おんちょう うしな
神の恩寵を失う。



ひ
この日において、

かみ あい ひとびと あいだ
神に愛されし人々の間の

ふ わ あらそ ろんそう
不和、争い、論争、

りはん れいたん たいぎょう
離反、冷淡ほどこの大業に

きがい くわ ほか
危害を加えるものは他にない。



ことば ゆうじょう しめ
言葉だけで友情を示すことに

まんぞく
満足してはなりません。

みち であ ひと
あなたの道で出会う人

すべ たい
全てに対して、

こころ やさ あいじょう
あなたの心を優しい愛情で

も た
燃え立たせなさい。



たたか おも わ とき
戦いへの思いが湧いた時は、
まさへいわ おも
それに勝る平和への思いで
はんたい
反対しなさい。



にく おも
憎しみの思いは、
きょうりよく あい おも
より強力な愛の思いで
ほろ
滅ぼさなければなりません。

かげぐち こころ ひ け
陰口は心の灯を消し、

たましい せいめい
魂の生命を

ほろ
滅ぼすものである。



なんじしんつみびと あいだ
汝自身罪人である間は、

たにん つみ ささや
他人の罪を囁くな。



あ かた
悪しきことを語るな。

なんじ
さればそれが汝に

かた
語られることもなし。

たにん あやま こちょう かた
他人の過ちを誇張して語るな。

なんじみずか あやま
されば汝 自らの過ちも

おお おも
大げさに思われず。



じつざい こ
おお実在の子よ！

なんじ
いかにして汝、

じしん けってん わす
自身の欠点を忘れ、

た ひとびと けってん あ
他の人々の欠点を挙ぐるに

きゅう え
急なるを得るや。



ことば たいかい
わが言葉の大海に

み
身をしずめよ。

なんじ ひみつ と
汝らがその秘密を解き、

ふか ところ かく
深い所に隠されている

ち え しんじゆ のこ
知恵の真珠を残らず

はっけん
発見できるように。

